

※=====※

トラック 1

※=====※

……おや、目が覚めたんですね。

あなたは山の中で倒れていたのですが、覚えていますか。

礼はいりません。

困っている人間を助けるのは、神として当然のことです。

……ええ、神です。冗談や嘘ではありません。

やはり今の人間はわたしのことを知らないんですね。

いいですか。わたしの名は瑞穂。

この地を千年以上見守ってきた豊穰の女神です。

かつては人々と共に生きていた時代もありましたが、

彼らも百年ほど前にこの地を去り、

こうしてあなたを助けるまでずっと一人で生きてきたのです。

どうでしょう。少しは信じてくれましたか。

そうですか。信じてもらえたようで、よかったです。

ではさっそくですが、あなたに一つやっていただきたいことがあるのです。

わたしと夫婦になり、子作りをしましょう。

そして次の千年を、わたしと共に生きてほしいのです。

……そんなにじろじろと私の体を見て、

なにか気になることでもありましたか。

『説明が足りない。理由を教えてください』？

わかりました。では、説明しましょう。

わたしは豊穡を司る女神ですが、

この地から人間が去ったことで信仰心は薄れ、

力はかなり衰えてしまいました。

その失った力を取り戻すためには人間の精を摂取するのが効果的なのです。

そこであなたと夫婦の契りを交わし、あなたの精をいただきたいのです。

どうでしょう。理解していただけましたか？

『いきなりそんなことを言われても決められない』、ですか。

たしかにそうでしょう。

ですが、わたしはあなたが適任だと思っています。

気づいていますか？

あなたの股間、さきほどから大きくなっていますよ。

豊穰の女神であるわたしの、特にこの胸が気になっている様子。

……誤魔化さなくても結構です。

かつての人々もあなたと同じようにわたしの胸や尻で興奮していましたから、

気にする必要はありません。

むしろ、これは良い機会です。

どうでしょうか。

わたしがあなたの性欲を処理する代わりに、

あなたの精液をわたしに捧げてみるというのは？

先ほどの契約の話は、それから決めていただいても構いません。

……ええ。

それではさっそく始めましょうか。

豊穰の女神の体を、どうぞ味わってください。

※=====※

トラック 2

※=====※

いかがでしょうか、わたしの膝枕は。

……『柔らかくて心地いい』？そうですか、それはよかった。

胸に遮られて、直接あなたの顔を見ることができないのは残念ですが、
性欲処理に支障はありません。

受け止めるための盃も用意できましたから、
あなたの逸物を表に出させていただきますね。

やはりあなたは、わたしの夫に相応しい方ですね。
皮は完全に剥けて、亀頭も真っ赤に膨らんでいる。
若くて雄々しい、立派な逸物です。

女神の体でこんなに興奮して、とても素直な方。
ではわたしも、失礼しますね……。

いかがですか。これが豊穡の女神の乳房です。
さあ、どうぞ。乳房を鷺掴みにしたり、
桜色の乳首を指でつまんだり、ご自由に。
わたしのことは気にせず、乳首を吸っても構いません。

むしろわたしの母乳を飲んでいただいた方がよいですよ。

豊穡の女神の体液には、

体力や精力の増進、人間が扱う媚薬に近い効果もあります。

特に母乳はその効果が強いですから、

あなたにはしっかりと飲んでいただきたく。

……んっ。ええ、そうです。

わたしの乳房を両手で持ちながら、

赤子のように吸ってください。

そのまま、遠慮せずに……あっ。

どうですか。わたしの母乳、美味しいですか。

……ふふ。

そんなに強く吸うということは、気に入っていただけたようですね。

それではわたしも、あなたの逸物に触らせていただきます。

あなたの逸物と玉袋に詰まった性欲と精液を、

すべてわたしが吐き出させてあげましょう。

んちゅ、れろお……んっ。

こうして、わたしの唾液が馴染んだ手で扱って差し上げます。

さあ、始めますよ。

しこ、しこ……しこ、しこ……。

いかがですか。

女神の指で、硬く勃起した自分の逸物を扱かれる気分は？

女神の胸に吸い付いて、その母乳を好きなだけ飲める贅沢な時間、

どうぞ楽しんでください。

あっ。

硬く勃起したあなたの逸物が、んっ……わたしの手の中で震えてます。

乳を吸いながら逸物を扱かれて、気持ちよくなってきましたか。

胸を掴む手にも力が入って、吸い付きも強く……ん、はぁ。

これでは本物の赤子ですね。

そんな甘えたがりなあなたの逸物は、

このまま唾液の匂いが染み込んでしまうぐらい念入りに扱いて差し上げます。

母乳が効いて、より大きくなってきたあなたの逸物を、

し〜こ、し〜こ……しこしこしこ。

亀頭から根本まで、唾液を塗り広げるようにゆっくり扱いたり、

逸物の敏感な場所を刺激するように強く握ったり……。

いかがですか。

こうして緩急をつけるのも、また気持ちがいいでしょう？

あっ、ん…んんっ。

胸を吸って返事とは、そんなにわたしの胸が大好きなのですね。

ええ、ええ。

そのままわたしの母乳に溺れてしまうぐらい、たっぷり吸っていいですよ…♡

わたしと契約すれば毎日飲み放題ですけど、

今の内からいっぱい味わってくださいね。

……ふふ、もう出てしまいそうですか？

逸物がもどかしそうに震えて、玉袋もせり上がってきていますね。

亀頭の先っぽからは透明な汁も溢れてきていますし、

精の匂いが強くなっています。

さあ、どうぞ。そのまま我慢せず、わたしの胸を吸いながら射精していいですよ。

神に奉納する子種汁を、この盃に納めてください。

んっ♡んんっ♡

おっぱい吸いながら射精、気持ちいいですか。

あ♡まだ出るのですね。いいですよ、どうぞ。

玉袋の中身が空っぽになるまで、たくさん抜いてあげます。

盃もまだ満杯には程遠いですし、たっぷり出してください♡

ふふっ。とっても息荒くなって、逸物も幸せそうに震えて……

ああ、まだ溢れてきて。

女神の胸を驚掴みにして、乳首に吸い付きながらの射精、

もう忘れられないですね？

さあ、最後の一滴まで出し切ってください。

ぴゅっ、ぴゅ〜っ♡

はい、射精お疲れ様でした。

見てください。

盃の中、あなたが出したばかりの精液で一杯になっていますよ。

女神の母乳を吸いながらの射精、

これだけ気持ちよかったということですよ。

それではさっそく、あなたの奉納してくれた精液、いただきます。

んっ……じゅる、じゅぞぞぞ♡

んく、ごく、ごくごく……ごくんっ。

……ふう。

わたしの母乳を飲んでいるとはいえ、

濃度も量も申し分のない素晴らしくて、とても美味しかったですよ。

素敵な精液、ご馳走様でした♡

※=====※

トラック 3

※=====※

……ああ。たった一杯だけだったのに、

全身に力が満ちていくのが分かります。

量も味も濃さも、

あなたの精液はどれも素晴らしくて、本当に素敵。

正直に言うと…わたし、癖になってしまいました。

その…あなたの精液が♡

もしもこれだけ濃厚な精液を子宮に注がれたらどうになってしまうのか。

想像しただけで背筋がぞくぞくと震えてしまいます。

……ええ。やはりあなたこそわたしの夫に相応しい方。

間違いありません。

それにあなたも、

もうわたしの体が忘れられなくなっているのでは？

さっきよりも胸への視線、大胆になっていますよ。

息も荒くて、発情期の獣みたい♡

逸物もわたしの母乳を飲んだからすっかり元気ですし、

わたしの体、もっと味わいたいんですね。

……ふふ。顔、真っ赤。

恥ずかしがる必要は無いですよ。むしろ良い調子です。

それだけわたしの母乳があなたに馴染んでいるということ。

契約を結ぶ相手として本当に理想的ですから。

想像してみてください。

わたしと契約すれば、豊穡の女神を独り占めできるのです。

女神の髪の毛の一本から爪のひと欠片、母乳の一滴まですべてあなたのモノ。

この大きな乳房を鷲掴みにして母乳を好き放題飲みながら、

何度も腰を振り、女神の子宮に子種汁を注ぎ込む……♡

そんな淫らで贅沢な子作りも契約して夫婦になればできるんです。

契約すれば、この時代に生きる人間の中であなただけが、

女神の体を好きにする権利を得られるのですよ。

……ふふ。いま、逸物がビクッと震えましたね。

さあ、あなたの答えを聞かせてください。

わたしと、豊穡の女神である瑞穂と夫婦の契約を結び、

この地で共に生きてくれますか。

ありがとうございます。

それでは契約を結びましょう。

夫婦としての契りと、それから子作りの契約も。

……ああ、契約と言っても難しいことはありません。

すぐに終わるものですから安心してください。

ではまず、わたしの手を握ってください。

……ふふ。あなたの手、温かいですね。

さあ、遠慮なくギュッと握っていいですよ。

それでは、次に頭の中でこう唱えてください。

『わたしは豊穡の女神瑞穂と契りを交わし、共に生きる』

『求められれば必ずまぐわい、子作りに励む』と。

どうですか。無事に唱えることができましたか？

……はい。それならよかったです。では、次が最後です。

わたしと唇を重ね、唾液を交換しましょう。

それで契約は結ばれます。……意外と簡単、ですね？

んえ……ほら、いふれもいいれふよ。

ん、じゅる。ちゅば、ん、ちゅ……じゅるる、ちゅる、れろお♡

もっと、ひまひよう♡

んちゅ、じゅるる、ちゅば♡あむ、んっちゅ、れろ、じゅるるる♡

あむ、ちゅる、ちゅば、んっちゅ♡

じゅるる、ちゅば、んっちゅ、ちゅぞぞぞ♡

ちゅっちゅ、ちゅ〜〜っ♡

……ふはあ♡

さあ。

これで契約は結ばれ、あなたは豊穰の女神であるわたし、
瑞穂の夫となりました。

これからはわたしとともに生きていくんです。

それではさっそく夫婦としての共同作業を始めましょうか。

あなたの目を見れば分かります。

もう限界ですよ。……ふふ、わたしもです。

それでは始めましょうか、旦那様♡

豊穰の女神との子作り交尾を……♡

※=====※

トラック 4

※=====※

ふふ。本当にもう我慢できないようですね……。

「はぁ…はぁ…」って荒い呼吸を抑えられず、
わたしの胸や唇を遠慮なくじろじろと見て。

人間ではない、女神の体を独り占めできると思ったら、
興奮が収まらないのも仕方ないですね。

それにわたしも、んっ、はぁ……♡

その、とっても太くなった逸物を味わえると思っただけで、
体の火照りが止まらなくなっていました♡

あなたももう頭の中は子作りのことで一杯みたいですし、
始めてしまいませんか。
邪魔な布は放り投げて……っと。

どうですか？あなただけの、豊穣の女神の裸ですよ。

あんなにたくさん吸った胸だけでなく、
お腹も腕も足も、体の隅々まであなたのもの。
いつでもどこでもわたしの体に触れて、吸って、揉んで…

好きにしていいます。

さて…。

どうぞ。

わたしが下になりますから、

あなたの好きなようにわたしを犯してください。

あなたはもうただの人間ではなく、神の夫となったのです。

それにわたしと子作り契約を結んだ以上、

人間同士の決まりに囚われる必要はありません。

自分の欲望のままに、わたしを犯していいますよ。

さあ。わたしと、瑞穂と子作りしましょう…旦那様♡

あっ、んっ♡きゃあ♡

んっ♡じゅる、ちゅば、あむ…んっ♡じゅるる、れろ♡

ちゅば、んっちゅ、じゅるる、ちゅっちゅ♡

んちゅ♡ちゅば、ちゅる、じゅるる……あっ、ん♡

いきなり覆いかぶさって、ちゅる、ちゅば♡

んっ……舌をねじ込んでくるなんて……んっ、じゅるる♡

それに、あんっ♡おっぱい揉みながら味わうわたしの舌……ん、ちゅば♡

そんなにおいしいですか♡

んっ……はぁ♡とっても嬉しそうな顔。

そんなに良い顔を見せられたら、わたしももっと興奮してしまいます♡

それにあなたの勃起した逸物がさっきからお腹にぐりぐり当たって、

『早く子作りしたい』って訴えてくるせいでアソコの疼き、

どんどん強くなって……♡

あぁ…女神の子宮も期待させてしまう、とっても熱くて大きい逸物♡

そんなものを放っておいたら、罰が当たってしまいます♡

いいですよ。わたしの子宮も膣も、もうとっくに準備はできていますから。

あなたのとっても濃くてどろりとした精液、好きなだけ注いでください♡

んっ♡硬くなった亀頭が、入口に擦れて……

あっ、いいですよ♡そのままどうぞ♡

瑞穂のこと、あなたの逸物で犯してください……

んっ、くぅ……あっ♡♡

あっ、あぁ♡挿入して、んっ♡

そのまま、すぐに腰動かすのはっ♡は、反則、ですっ♡

ん、くう…あっ、あんっ♡

こんな、乱暴な交尾……人間の女性なら、耐えられないっ。

わたしが、神様だからできる…自分勝手な激しい腰振り♡

いいですよ、素敵です♡それでこそわたしの……んっ♡旦那様です♡

ほら、またキスしましょう♡その方がもっと、気持ちいいですから♡

あむ、ちゅ♡んちゅ、ちゅば、れろ♡

あっ、んん♡それ、いいです♡んっ♡ちゅる、ちゅ♡

じゅる、じゅるる、ちゅば♡

……ん、あっ♡胸揉まれながら、奥たくさん突かれるの、んっ、気持ちいい♡

そのまま、もっと♡もっとわたしの体、味わって……あっ、くうっ♡

はあ……はあ……♡もしかして、もう出そうですか？

中でビクビク震えてるから、んっ……分かります♡

女神の膣、人間の体にはまだ刺激が強すぎますよね♡

んっ、はあ♡いいですよ、我慢せずに射精して♡

わたしの子宮に子種たくさん注いでください♡

あっ、んんっ♡……んっ、はあ♡あっ、奥、すごい……熱いのが、たくさん♡

はあ…んっ♡子宮に注がれてるの、とっても分かります♡

あ、まって♡奥ぐりぐり突かれたら、あっ♡

んお、おっ…んっ♡雌の声、漏れちゃ……んっ♡

はぁ…はぁ…さすが、ですね。

こんなに濃くて大量の精液を出されたら、

すぐに力も戻ってきそうです。

でも、んっ……一回程度じゃ満足できません♡

あなたもそうですよね？だって、金玉がまだずっしりしてます♡

逸物も膣の中で硬いままですし、わたしの体まだまだ味わい足りないんですよ。

ひゃっ♡あ、んんっ♡

いきなり乳首に吸い付いてくるなんて、あっ、んっ♡

吸うの、はげしい…っ♡

んんっ♡はぁ、んっ……くう♡

胸吸われながら、子宮突かれるの…これ、だめっ♡

癖になって…あっ、んっ♡はぁ、あ、あぁっ♡

カリで膣の中、擦れてえ……んっ、はぁ♡それ、激しいの、好きです♡

もっと…いっぱい腰、振ってえ♡

ああ、あっ、ん…っ♡

んっ……妻の母乳を飲みながら、膣を好き放題犯すの気持ちいいですか？

いいですよ。その調子で、あっ、んっ♡

わたしの膣の形、あなた専用に変えてくださいっ♡

あっあっ♡あっ、はあっ♡おっ、ん……はげしっ♡

あなた、本気ってわかります♡

女神の体にしがみついて、おっぱい吸いながらの本気交尾♡

あっ、ああっ♡こりえ、だめっ♡

わらひ、これ、たえられ……あっ、んんっ♡

はあ……んっ、はあ……。

こうなったら、わたしも……あなたの腰に足を絡めて……んっ♡

ああ、んっ♡あなたの逸物が、んっ♡もっと深いところに届いてっ、んあ♡

あっ、これっ♡気持ちいい、すごく……んっ、はあ…あんっ♡

いいですよ♡もっとわたしのこと犯して♡

女神の体…ん…はあ♡もっと、もっとあなたで染めてください♡

あむ、んっ、ちゅば♡んじゅる、じゅるるる♡

ちゅぷる、あむ、ちゅ……はあ、んっ♡ちゅば、じゅる♡

んちゅる、れろ、ちゅば、んっちゅ……

じゅるる、じゅぞぞぞ♡んっ、ちゅっちゅ、れろ♡

あむ、んちゅる、じゅるる♡はあ、はあ…

んっ、ちゅ♡ちゅっちゅ♡ちゅ～～っ♡

ご、ごめんなさいっ。

わたし、もうイッてしまいそうで……あっ、んん♡また、逸物が大きくなってっ♡

体中、気持ちいいのが止まらないですっ♡

だめ、イクッ。イッちゃう……あなたも、一緒に♡

旦那様、一緒にイきましょう…あっ、あぁっ♡

まだですよ…まだまだ。

ほら、もっとしましゅうね、旦那様♡

※=====※

トラック 5

※=====※

んっ……はぁ、はぁ♡

まだ朝なのに、庭先で後ろからなんて、あっ♡

声、抑えられない……んっ、あぁ♡

はぁ…はぁ…。旦那様ってば、まだ起きたばかりなのに積極的ですね。

あっ、んっ♡それ、すきです♡子宮の入口、亀頭で突かれるのすき♡

それに、あなたの腰遣いとっても洗練されて……あっ、はぁ♡

逸物がずっとわたしの気持ちいいところに当たって、んっ♡

これ、すごい……あ、はぁっ♡

……あっ♡後ろからいきなり胸揉んでくるの、ずるいです。

はぁ…はぁ…んっ、ひゃ♡そんなに激しく揉まれたら、んっ♡

胸に跡がついちゃいます♡

もう、旦那様ってば胸を揉む手つき、どんどんいやらしくなってます。

女神の体、そんなに気に入ってくれたんですね。

あっ、んっ♡ふふ、嬉しいです♡

わたしも、あなたの好きな締めつけ覚えましてから。

あなたのこと、もっと気持ちよくしてあげられます♡

それじゃあそろそろ……。

朝一番の新鮮な精液、妻にご馳走してくれませんか♡

あなたがもうイきそうなのは分かってますから。

女神の子宮、またあなたの子種で満たしてください♡

あっ、ああっ♡んっ、はぁ…あっ♡

あなたの、本気の種付け♡

んっ、わたしのこと孕ませようとしてるの、わかる♡

きて、もっと。もっといっぱい突いてくださ……んっ、ああ♡

ああ、いい……いいですよ、もっと♡

んっ、はぁ…あっ、ああ♡

あなたに、旦那様にいっぱい犯されるの幸せ♡

このまま中にください♡わたし、全部受け止めますから…あっ、ああ♡

もう出ますか？んっ……射精、いいですよ♡

あなたのタイミングで、いつでも射精してください♡

あっ、んっ……はぁ、あっ、んんっ♡

んっ♡あっ、んっ……くぅ♡

奥に、一番奥に、出てる……あっ♡

はぁ……はぁ……♡♡

また、すごい勢いですね。

普通の人間なら、こんなに力強い射精、毎日ではできないんですよ…。

豊穡の女神の夫に相応しい、本当に立派な旦那様です。

あっ、んっ♡いきなり抱きしめて、どうしたんですか？

……繋がったままキスしたい？はい、いいですよ。

ん、ちゅっ。ふふ、息とっても温かいですね。

あなたの興奮が全部伝わってきて、ドキドキします。

んっ……姿勢はちょっと大変ですけど、これも良いですね。

そういえば、あなたがたくさん中出ししてくれたおかげで、

わたしの女神としての力もかなり戻ってきたんです。

このあたりの土地にいる精霊や他の神も次第に元気になってくるはずですから、

もしかしたら近いうちに遊びに来る者もいるかもしれません。

その時はたっぷり見せつけてあげましょうね。

わたしたち夫婦がどれだけ仲が良くて、幸せなのか。

それと、わたしの自慢の旦那様がどれだけ素敵なのかも。……ふふっ。

さてと、そろそろ朝食にしませんか。

朝からたくさん動いたせいで、お腹もそろそろ空いてくるはずですし。

それに、このまま続けたらお昼になっちゃいますから。

もちろん、朝食が済んだらまたいっぱい愛し合いましょうね、旦那様♡